



©Yuki Asada

遊牧民の知恵から生まれたフェルト

一面に広がる大草原。目の前に大きく開けた視界の先には、羊の群れと遊牧民の姿が見える。モンゴルの人々にとって、羊はなくてはならない存在。家畜としてはもちろん、日常生活のさまざまなものが“羊頼み”だ。

モンゴルの代名詞の一つ、円すい型の住居「ゲル」もそう。羊毛から作ったフェルトで家を覆ってしまえば、夏は風通しがよく、冬は暖かい。寒暖差の激しいこの国の人々の生活の知恵だ。

首都ウランバートルは著しい経済成長を遂げているモンゴルだが、街を少し離れるとまだまだ貧しい地域が広がっている。一人で子育てをしているお母さんも多い。その事実を知った青年海外協力隊OGの佐屋^{ひとみ}さんは、彼女たちが自信

を持ち、自分の力で生活を支えていけるような仕事はないか考えた。そこで思いついたのが、この国の伝統が受け継がれているフェルト。モンゴルの女性たちの技術を生かせば、絶対に日本でも売れる製品が作れると思ったのだ。

羊毛を石けん水でもんでいくと、柔らかいフェルトに大変身。赤、青、黄…カラフルな色に染め、型に沿って切って縫い合わせれば、かわいい小物の出来上がりだ。「モンゴルのお母さんたちはとても働き者。フェルト製品を通じて、モンゴルや彼女たちのことをもっと知ってもらいたい」と佐屋さんは話す。

モンゴルの人々の温かさが伝わってくるフェルトの小物。あなたの生活のアイテムに加えてみては。



遊牧民から入手した羊毛を使ってフェルト作り

★モンゴルのフェルト製品を8人にプレゼント！→詳細は38ページへ

★製品の販売情報はホームページ(daladala.jp/)まで

